



News Release

プロ野球

ココロ動く、未来へ。
スカパー!

2021年12月21日
スカパー J S A T 株式会社

今シーズン、最も劇的なサヨナラ打を放った選手が決定！

2021 スカパー! ドラマティック・サヨナラ賞 年間大賞 受賞者

セ・リーグ 坂倉将吾選手（広島東洋カープ）

パ・リーグ 岡大海選手（千葉ロッテマリーンズ）

スペシャルゲストにとんねるず 石橋貴明氏が登壇



スカパー! は12月21日（火）に「2021 スカパー! ドラマティック・サヨナラ賞 年間大賞」の表彰式を開催しました。表彰式には受賞選手である、広島東洋カープ・坂倉将吾選手（セ・リーグ）と千葉ロッテマリーンズ・岡大海選手（パ・リーグ）が登壇しました。表彰式後には受賞両選手に加え、スペシャルゲスト・石橋貴明氏をお迎えしてトークショーも行いました。なお、表彰式とトークショーにはスカパー! プロ野球PRアンバサダーを務める倉持明日香さんも参加しました。

表彰式では受賞選手の発表に始まり、受賞プレー紹介をした後、トロフィーと賞金パネルが石橋貴明氏より贈呈されました。坂倉将吾選手（広島東洋カープ）は「サヨナラを打った時は、チームの皆が何とかつないでくれた打席だったので打ててよかったと思いますし、なによりチームが勝ててよかったと思います」、岡大海選手（千葉ロッテマリーンズ）は「それまでいい当たりもヒットを打つことが出来ず、なんとか打てればと思って立った打席だったので打ててよかったです」と打席を振り返りながら、受賞の喜びとともに挨拶しました。

表彰式後、会場では受賞両選手に加え、スペシャルゲストの石橋貴明氏による野球愛が溢れるトークショーを行いました。受賞プレーをVTRで振り返る場面や今シーズンの振り返りなどのトークを展開。坂倉選手は受賞プレーとなった「今シーズン初のサヨナラ勝利を決めた自身初のサヨナラ本塁打」を振り返ったり、今シーズンの活躍などの感想を述べました。岡選手は受賞プレーとなった「CS進出を決めたサヨナラ本塁打」を振り返ったり、今シーズンもう1本のサヨナラ本塁打の感想を語りました。石橋貴明氏は、「サヨナラホームランは最も華のある場面だと思います。来シーズンも美しい花火を打ち上げてください!」と受賞両選手の活躍にエールを送りました。

◎坂倉将吾選手（広島東洋カープ） コメント

狙って取れるものではないので、受賞出来て嬉しいです。サヨナラを打った時は、チームの皆が何とかつないでくれた打席だったので打ててよかったと思いますし、なによりチームが勝ててよかったと思います。映像を見ていると、自分のベースランニングとガッツポーズがダサいなと思いました（笑）

今シーズンは首位打者争いをするなど非常にいいシーズンでした。来シーズンもチャンスをモノに出来るように一球一球大事にしていくので宜しくお願い致します。

◎岡大海選手（千葉ロッテマリーンズ） コメント

月間で賞を頂いていたので、年間大賞に是非選ばれたいと思っていました。サヨナラの場面では、それまでいい当たりもヒットを打つことが出来ず、なんとか打てればと思って立った打席だったので打ててよかったです。今日たまたま母の誕生日なので、賞金で何かプレゼントできたらいいなと思います（笑）

今シーズンは途中出場が多かったこともあり、出場した際にはしっかり仕事ができるように意識したシーズンでした。優勝争いをしている中、勝利に貢献出来てよかったです。この賞を誇りに来シーズンも頑張ります。

◎ゲスト・石橋貴明氏 コメント

今シーズンは、両リーグとも前年最下位チームが優勝しスリリングな日本シリーズもあつたりと、野球ファンにはたまらない一年になりました。

坂倉選手は日大三高出身ということで、帝京とは永遠のライバルなんですけど、お話をして体をさわってみて体幹の強さを感じました。岡選手はバネを感じました、あれだけの飛距離が出るということはやはりバネと明大魂なんだと思います（笑）

両選手受賞おめでとうございます。“サヨナラホームラン”というのは最も華のある場面だと思います。来シーズンも夜空に美しい花火を打ち上げてください！

■受賞プレー概要

坂倉将吾選手（広島東洋カープ）～9回4点差を逆転する自身初のサヨナラ本塁打～

坂倉選手は、9月7日（火）マツダスタジアムで行われた対中日ドラゴンズ18回戦、7対5と2点ビハインドで迎えた9回裏、2死1、2塁の場面で打席に立ち、ライトスタンドへ逆転サヨナラ3点本塁打を放った。

広島東洋は、先発の森下投手が6回途中4失点、2番手以降の投手陣も中日打線を食い止められないまま9回表終了時点で7対3と苦しい状況を迎えていた。しかし、続く9回裏、下位打線の連打により2死1、3塁とチャンスを作り、3番西川選手、4番鈴木誠選手の連続適時打で2点差に追い上げると、2死1、2塁の場面で坂倉選手が打席に立った。本塁打を放てば今シーズン初のサヨナラ勝利となる場面で、カウント2-1から中日の守護神R.マルティネス投手の直球を捉え、打球はそのままライトスタンドへ突き刺さった。この劇的な一打は、自身初となるサヨナラ打になると同時に二桁本塁打を達成した。

岡大海選手（千葉ロッテマリーンズ）～チームの2年連続CS進出を決めるサヨナラ本塁打～

岡選手は、10月15日（金）ZOZOマリンスタジアムで行われた対福岡ソフトバンクホークス22回戦、1対1の同点で迎えた9回裏、2死1塁の場面で左中間へサヨナラ2点本塁打を放った。

千葉ロッテは1点を先制された直後の5回裏、加藤選手のソロ本塁打で同点とする。その後、両チームのリリーフ陣が無失点リレーを見せ、1対1のまま試合は最終回の攻防へ。9回表、千葉ロッテ抑えの益田投手が打者3人でしっかりと抑え、裏の攻撃へ全てを託す。9回裏のマウンドには福岡ソフトバンク抑えの森投手。1死から代打、佐藤都選手が四球を選び出塁し、その後2死1塁となった場面で打席には岡選手。3-1からの5球目を捉えた打球は左中間へ伸び、そのままスタンドへ。土壇場での劇的なサヨナラアーチは、激しい首位争いを続けるチームにとって最高の一打となった。また、この試合の勝利で千葉ロッテは2年連続のCS進出を決めた。岡選手は4月21日に続く、今季2本目のサヨナラ本塁打。

■スカパー! ドラマティック・サヨナラ賞 年間大賞

本賞は、レギュラーシーズンを通じて最も劇的なサヨナラ本塁打、またはサヨナラ安打などを放った選手（セ・パ両リーグの各1選手）に贈られる賞です。「最後の一球まで何が起こるかわからない」と言われる野球というスポーツの象徴的なプレーであるサヨナラ打を称える本賞は、プロ野球全12球団公式戦全試合を放送し、ファンのみなさまの胸が熱くなるゲームを最後までお届けしているスカパー!の想いと連動した賞であり、今シーズン記録されたセ・リーグ13試合、パ・リーグ18試合のサヨナラゲームの中から、「最も劇的な一打」を選出しています。受賞両選手にはそれぞれオリジナルトロフィーと賞金200万円が贈られます。

なお、今回の年間大賞より、最も劇的な一打を表彰するという本来の趣旨はそのままに、本賞をファンの皆様とともに作り上げ、より親しみやすい賞にしたいとの思いこめて、受賞選手選出方法にプロ野球ファンの投票制を導入いたしました。

<<年間大賞 歴代受賞選手>>

年度	セントラル・リーグ	パシフィックリーグ
2009	亀井 義行（読売ジャイアンツ）	井口 資仁（千葉ロッテマリーンズ）
2010	天谷 宗一郎（広島東洋カープ）	小久保 裕紀（福岡ソフトバンクホークス）
2011	長野 久義（読売ジャイアンツ）	松田 宣浩（福岡ソフトバンクホークス）
2012	和田 一浩（中日ドラゴンズ）	中田 翔（北海道日本ハムファイターズ）
2013	長野 久義（読売ジャイアンツ）	浅村 栄斗（埼玉西武ライオンズ）
2014	福留 孝介（阪神タイガース）	松田 宣浩（福岡ソフトバンクホークス）
2015	雄平（東京ヤクルトスワローズ）	柳田 悠岐（福岡ソフトバンクホークス）
2016	鈴木 誠也（広島東洋カープ）	吉村 裕基（福岡ソフトバンクホークス）
2017	宮崎 敏郎（横浜 DeNA ベイスターズ）	栗山 巧（埼玉西武ライオンズ）
2018	下水流 昂（広島東洋カープ）	森 友哉（埼玉西武ライオンズ）
2019	高山 俊（阪神タイガース）	鈴木 大地（千葉ロッテマリーンズ）
2020	西浦 直亨（東京ヤクルトスワローズ）	井上 晴哉（千葉ロッテマリーンズ）

リリース情報は、スカパー! 公式サイトにも掲載されております。<https://www.skyperfectv.co.jp/>